

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.20

知的障害のある児童生徒の 学びを支える各教科について



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



児童生徒の学びを支える各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領には、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科が示されています。これらのことを本号では、「知的障害のある児童生徒のための各教科」と表します。

知的障害特別支援学級では、小学校や中学校の各教科を、知的障害のある児童生徒のための各教科に替えて実態に応じた教育課程を編成することができます。このことを「特別の教育課程」といいます。

- ◆知的障害のある児童生徒のための各教科は、小学校や中学校と異なる教科で構成されていますが、目標や内容等の示し方の構造や教科に係る見方・考え方は、小学校・中学校の教科と同じです。
- ◆知的障害のある児童生徒の各教科は、小学校や中学校の各教科の目標・内容のように「学年」ではなく、「段階」で示されています。これは、児童生徒一人一人の学習状況等に合わせた内容が選択できるようにするためです。
- ◆知的障害のある児童生徒のための各教科には、文部科学省著作教科書が用意されています。

知的障害とは？

知的発達に関わる障害であり、「知的機能の発達に明らかな遅れ」と、「適応行動の困難性」を「伴う状態」が、「発達期」に起こるものをいいます。

「知的機能」とは、論理的な思考、抽象的な思考、問題解決・計画・判断等を意味します。これらの知的機能は、一般的には、同一の年齢であれば、だいたい同じくらいに発達していきますが、知的障害のある場合には、発達に明らかな遅れがみられることとなります。



適応行動の困難さの面では、次のような困難さが生じやすいです。また、これらの各困難さは、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があるといわれています。

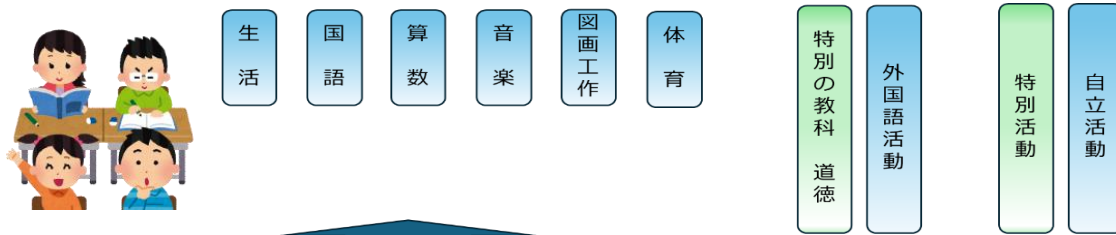


○概念的スキルの困難性	○社会的スキルの困難性	○実用的スキルの困難性
○言語発達：言語理解、言語表出能力など	○対人スキル：友達関係など	○日常生活習慣行動：食事、排泄、衣服の着脱、清潔行動など
○学習技能：読字、書字、計算、推論など	○社会的行動：社会的ルールを理解、集団行動など	○ライフスキル：買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など
		○運動機能：協調運動、運動動作技能、持久力など

知的障害のある児童生徒のための各教科は、知的機能の発達の側面や適応行動の困難さ等を踏まえて、各教科の目標と内容が設定されています。知的障害から生じる困難さは、児童生徒一人一人異なるため、児童生徒の学習状況等の実態を適切に把握して、個別の指導計画に基づき、各教科の目標が達成できるように指導内容を選択・配列していくことが大切になります。

知的障害のある児童生徒のための各教科について

知的障害のある生徒のための教育課程（小学部段階）

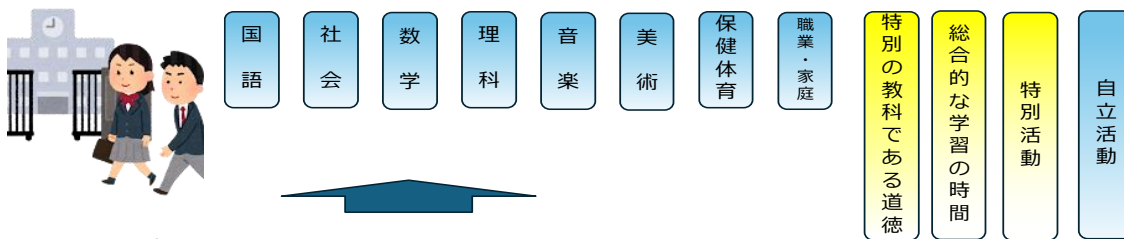


小学校の教育課程

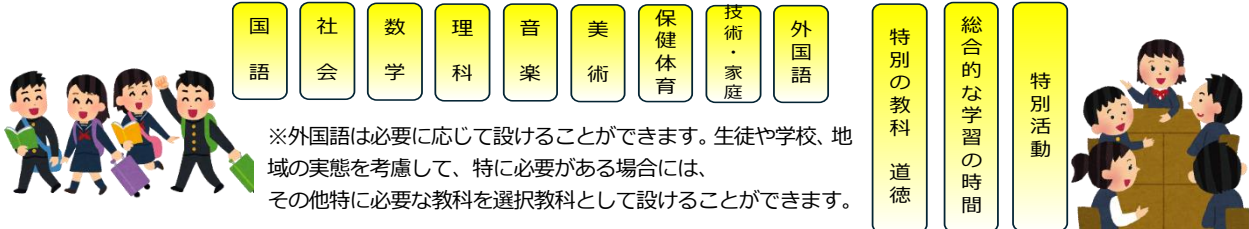
知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えて、実態に応じた教育課程を編成（特別の教育課程）



知的障害のある生徒のための教育課程（中学部段階） ※



中学校の教育課程



※外国語は必要に応じて設けることができます。生徒や学校、地域の実態を考慮して、特に必要がある場合には、その他特に必要な教科を選択教科として設けることができます。

教科の目標・内容は「段階」で示されています

知的障害のある児童生徒のための各教科は、小学校や中学校の各教科のように「学年」ではなく、段階別に目標と内容が示されています。その理由は、知的機能の状態が、同一学年であっても、個人差が大きく、学習状況等も異なるからです。小学部では3つの段階、中学部では2つの段階で示されています。このことにより、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を選択して、個別の指導計画に基づく効果的な指導ができるように考えられています。

小学部			中学部		高等部	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
小学部3段階では、社会生活につながる行動を身に付けることをねらいとする内容が示してあります			中学部2段階では、将来の職業生活を見据えた力が身に付けられるようにすることをねらいとする内容が示してあります		高等部2段階では、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等を習得することをねらいとする実用的・発展的な内容が示してあります	

☆さらなる理解のために☆

「段階の目標」について

各段階の目標は、各教科の目標の下に、段階的に積み上げて学習できるようになっています。例えば、小学部4年生の国語の学習場面であっても、1段階の目標で学習する児童もいれば、3段階の目標で学習する児童もいることなど、児童の学習状況に合わせて段階を選択していく視点が大切です。

〔国語〕 段階の目標

- 1段階 目標 の例
 - ア 日常生活に必要な**身近な言葉**が分かり……………
 - イ **言葉をイメージ**したり、言葉による関わりを……………
 - ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、**言葉を使おうとする**……………
- 2段階 目標 の例
 - ア 日常生活に必要な**身近な言葉**を**身に付ける**とともに……………
 - イ **言葉が表す事柄を想起**したり受け止めたりする力を養い……………
 - ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、**読み聞かせに親しみ**……………
- 3段階 目標 の例
 - ア 日常生活に必要な国語の**知識や技能**を**身に付ける**とともに……………
 - イ **出来事の順序を思い出す力**や感じたり創造したりする力を養い、……………
 - ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、**図書に親しみ**……………

「文部科学省著作教科書 知的障害者用 ☆本」について

知的障害のある児童生徒のための各教科のうち、小学部の生活科、国語、算数、音楽、中学部の国語、数学、音楽には、文部科学省著作教科書があります。各教科書1段階は「☆」、2段階は「☆☆」、3段階は「☆☆☆」で示されていることから、「☆（ほし）本」といわれます。

中学部は、国語、数学、音楽の☆本があります。中学部1段階は「☆☆☆☆」2段階「☆☆☆☆☆」となります。なお、令和7年度からは、社会、理科、職業・家庭の☆本が刊行されます。



〔生活〕



〔国語〕



〔算数〕



〔音楽〕

それぞれの☆本には、教科書解説が用意されています。☆本に掲載されている題材等の取扱い方などについても解説されています。

<参考情報>

[○国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システムの推進を目指す 特別支援学級の教育課程編成・実施 ガイドブック](#)



 独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803 (代表)

初版発行 令和6年9月